2017.10.07
2017.10.21

『旅愁』
小嶋祥三

ふけゆく秋の夜　旅の空の　わびしき思いに　ひとり悩む
恋しやふるさと　なつかし父母　夢路にたどるは　さとの家路

これはオードウェイ作曲の歌曲に犬童球渓が歌詞をつけた唱歌である。子供のころ、そして最近まで、この歌詞に特に注意を払わず歌ったり、聴いたりしていた。下の図は家にあった『旅愁』の楽譜の表紙である。描かれている家並はとてもふるさとの家にはみえない。どことなく温泉場のような雰囲気がある。旅行に温泉はつきものだから、違和感はなかった。

ただ、ここで疑問がわいてきた。旅行に行って、わざわざふるさとや父母のことを考えるだろうか。そこで思うのだが、旅は旅行というよりは、「人生の旅路」的なものではないのだろうか。ふるさとを離れて暮らしている中年以下の比較的若い人？の歌のように思うが、どうだろうか。